



天文資料

2020年 7月号

令和2年度 第4号 (7月号)

令和2年6月26日

発行：佐世保市少年科学館
佐世保市少年科学館

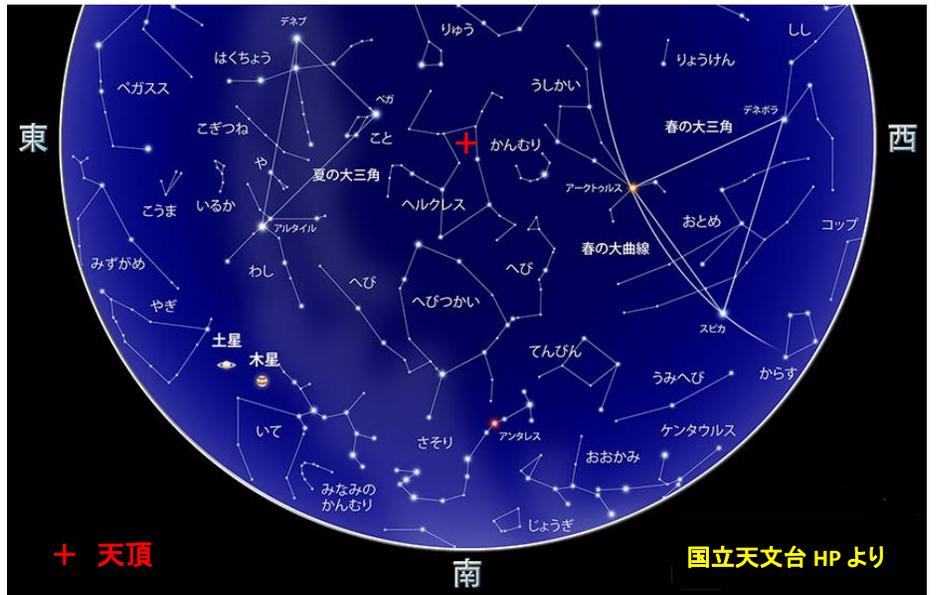


<梅雨空が続いています。明けるのはいつ頃でしょうか…。>

6月11日に長崎県は梅雨入りしました。梅雨の期間は40日から45日といったところですので、この傾向どおりであれば梅雨明けは7月中旬から下旬にかけてということになります。早く夏空を見たいですね。

では、7月の星空をご紹介します。

7月は春の大三角が西へ傾き、夏の大三角が高くなりつつある時期になります。その2つの大三角の



間にへびつかい座・へび座・ヘルクレス座といった大型の星座がありますが、目立つ明るい星がないので慣れないと星座の形をうまくたどれないかもしれません。しかし、その南にあるさそり座は違います。真っ赤に輝く一等星アンタレスを中心に、大きなS字状に並んだ星々は、よく目につきます。その左側(東側)には、小型の北斗七星のような星並びである南斗六星を中心にしたいて座が見えます。さらにその東側には、-2等級で金色に輝く木星と0等級で白色に輝く土星があり、周囲を圧倒する存在感を見せています。

この辺りから夏の大三角に向かって立ち上がる天の川も、ぜひ暗い夜空が見える場所でご堪能ください。

よい天気にも恵まれました！ 部分日食(2020. 6. 21)

14時過ぎまで曇天で「これは難しいかも」と思っていたのですが、15時頃から一気に雲が取れて最高の日食観測

日和になりました。観望された方々は「欠けてきた！」「すごい！」など声を上げながら楽しまれていました。



<金星探査機「あかつき」が解き明かしました！>

金星は二酸化炭素を主成分とする分厚い大気(90気圧)に覆われていますが、惑星本体の自転速度の60倍(およそ秒速100m)にも達する速さで大気が回転していることが知られています。これをスーパーローテーションと呼んでいます

が、それが維持されるメカニズムはこれまで大きな謎とされていました。

北海道大学などの研究者からなる研究チームは「あかつき」によって得られたデータを解析し、金星大気を加速させているのは熱潮汐波(※)であることを明らかにしました。

「あかつき」は現在も観測を継続中で、今後も金星大気に関する様々な知見が得られ、地球型惑星や

系外惑星における大気循環について、より広い理解が得られるものと期待されています。

※ 熱潮汐波とは、大気が昼に熱せられ夜に冷やされることによって大気が動いて生じる大規模な気圧の波のことです。



JAXA HP より